



学びと社会をつなげる 人生100年時代の キャリア教育

～学校と地域や産業界が連携した
キャリア・オーナーシップの醸成～

キャリア教育の推進

Promoting career education

～キャリア・オーナーシップとは～

「自分のキャリアは自分のものであることを自覚し、
自らどうしたいのか、どうなりたいのか、
どうあるべきなのかを考え、
納得のいく生き方を続けていくために行動していこう」という
当事者意識を強くもつこと。

令和5年3月 北海道教育庁学校教育局高校教育課

就業体験活動について

学習指導要領では、「学校においては、キャリア教育及び職業教育を推進するために、生徒の特性や進路、学校や地域の実態等を考慮し、地域や産業界等との連携を図り、産業現場等における長期間の実習を取り入れるなどの就業体験活動の機会を積極的に設けるとともに、地域や産業界等の人々の協力を積極的に得るよう配慮するものとする。」ことが示されています。

ここでは、地域や産業界等と連携した就業体験活動の好事例を紹介しますので、各学校におけるキャリア教育及び職業教育の取組の参考にしてください。

デュアルシステムの指導事例

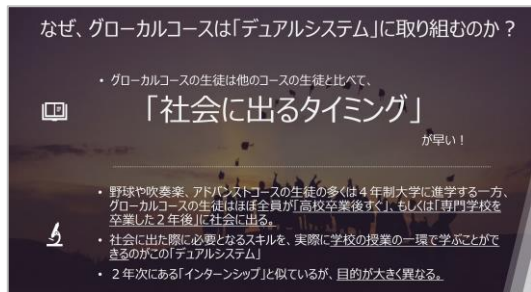
デュアルシステムとは、若者向けの実践的な教育・職業能力開発の仕組みとして、企業等での実習と学校での講義等の教育を組み合わせることで実施することにより、若者を一人前の職業人に育てる仕組みのことをいいます。

北海道鵠川高等学校

グローバルコースの1、2年生を対象に、学校設定科目「チャレンジスタディ」（4単位）を開設し、4～6校時の時間帯に月3回程度、3か月間で計8回の就業体験活動を実施しています。

事前学習において、デュアルシステムの目標や通常のインターンシップとの違いなどを理解し、訪問先の事業所について調べ学習を行った上で、町内の事業所（役場、小学校、中学校、公共施設、農業協同組合、農園、地元企業など）で実習を行いました。

参加した生徒からは、「専門的な知識を身に付けることができた。」「コミュニケーションを取ることに自信が付いた。」などの感想が寄せられました。また、受入先の事業所からは「地元企業がどのような仕事をしているか、高校生に知ってもらえる機会であり、よい取組である。」などといった感想が寄せられました。



【デュアルシステム説明会資料（一部抜粋）】

【デュアルシステムで身に付けさせたい力】

- 1 専門的な知識・技能
- 2 コミュニケーション力
- 3 主体的に取り組む力（意欲）
- 4 他人と協調しチームで活動する力
- 5 課題を発見し解決する力
- 6 地域理解・地域愛

北海道旭川工業高等学校

3年生を対象に、学校設定科目「企業実習」（2単位）を選択科目として開設し、4週間にわたる就業体験活動を実施しています。

該当生徒が長期実習期間中に実施できなかった教科・科目は、長期実習期間外に該当生徒の時間割を別に設定することで、補習などを行わずに実施できています。

参加した生徒は、実習期間中に多くの方々とコミュニケーションを図れたことなどをキャリア・パスポートに記載し、2年生の時に参加したインターンシップの状況を振り返ることで、自身のコミュニケーション能力の向上を感じるなど、自身の変容や成長を自己評価することにつながっています。



【熟練技能者による指導の様子】

【学校設定科目「企業実習」の内容】

- 1 企業調査
 - (1) 旭川地域の産業構造
 - (2) 求人企業調査
- 2 働くことの意義
 - (1) 学ぶことと働くことの関係
 - (2) 礼節やマナー
 - (3) 自己の適性理解
- 3 日本版デュアルシステムの意義
- 4 企業実習
 - (1) 安全
 - (2) 情報の取扱い

北海道帯広農業高等学校

3年生を対象に、学校設定科目「企業実習」（2単位）を選択科目として開設し、夏季休業などを活用した1週間程度の就業体験活動を実施しています。

参加した生徒からは、「暑い中でチェーンソーを扱うことは重たくて大変だが、やりがいがある。」「足場が悪く大変だったが、下刈り作業をして達成感がある。」などの感想が寄せられました。また、受入先の事業所からは「入社するしないに関わらず、高校生が来てくれるのは嬉しい。」といった声が寄せられるなど、本道の基幹産業を支える人材育成に向けて、地域の産業界からの期待も大きい取組となっています。



【植樹された林木を観察する様子】



【伐倒作業の様子】

【学校における学習】

- ・林業の現状と課題
- ・測量方法等

【企業における実習】

- ・森林環境の監視と管理
- ・森林の境界や面積の測量等

アカデミック・インターンシップの指導事例

アカデミック・インターンシップとは、大学等の専門機関において実施する就業体験活動のことをいいます。大学の研究室等と連携して、将来進む可能性のある学問分野に関係した研究活動等を体験し、大学等への視野を広げることにより、生徒が「大学等の向こうにある社会」を意識し、自己の将来について考えるきっかけをつくることができます。



北海道大樹高等学校

2年生の希望者を対象に、北海道医療大学において、医療分野に関係した研究活動の体験を実施しています。臨床検査学科を希望した生徒は、インフルエンザ検査、尿検査、顕微鏡による細菌検査など、臨床検査技師が担う生理検査や検体検査を体験し、看護学科を希望した生徒は、ストレッチャー移動、新生児人形を用いて心音を聞くなどの体験活動を行いました。参加した生徒からは、「町の病院では高齢者が多い印象だったが、医療の分野は広く、様々な年代の患者がいることに気付いた。」などの感想があり、医療分野に対する見方・考え方が深まりました。

また、室蘭工業大学と大樹町の「包括連携協定」を活用することで、室蘭工業大学から講師を招き、1、2年生が、スズを用いた鋳造を行うなどの体験的な学習活動を年に5回ほど行いました。



【インターンシップ報告会の様子】



【ペーパーウェイトづくりの様子】

教育団体と連携・協力した体験的な学習活動

公益社団法人北海道私立専修学校各種学校連合会では、高校内で生徒に職業や進路を考える機会を提供する4つのプログラム「専門学校講話」「職業・職種講話」

「体験型授業」「校内進路相談会」で構成する「高等学校内キャリア教育プログラム」を高校の要請に応じて提供しています。「体験型授業」では、医療、調理・製菓、美容、動物など17のカテゴリで、令和4年度は327の講座が設定されています。

※北海道私立専修学校各種学校連合会のWebページ【URL】<https://hsu.ac>

職業
理解



【CAD体験の様子】

就業体験活動を充実するための留意事項

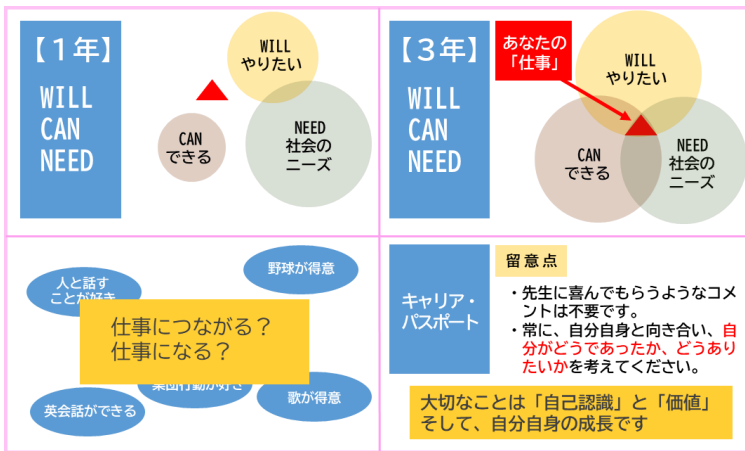
- 心構えやマナー、事業所に対する理解を深めるために十分な準備期間を確保する
- 生徒の健康状態を把握するとともに、事前指導において安全管理の指導を十分に行う
- 系統的な事後指導に資するため、教員は積極的に受入先を訪問する
- 就業体験活動の目的や生徒の活動内容などを、保護者に十分に連絡しておく



キャリア・パスポートの効果的な活用に向けて

国の調査（注）によると、自分の将来の生き方や進路について考える際、高校生が最も指導してほしいものは、「自分の個性や適性（向き・不向き）を考える学習」という結果があります。

このような学習を進めるには、自分自身の成長を確認できるツールであるキャリア・パスポートを効果的に活用することが重要です。クラスメイトや先生との話し合いなどを通じた振り返りや見通しをもつ活動に取り組むことで、「やりたいこと」「できること（力）」「社会のニーズ」の重なり合う部分を見つけ、それが仕事につながるか、仕事になるレベルかを見極める力を身に付けることが可能になります。



【キャリア・パスポートの効果的な活用に向けた説明資料の例】

【出典】「キャリア教育リーフレットシリーズ特別編」文部科学省国立教育政策研究所 生徒指導・進路指導研究センター（初版発行 令和4年9月）をもとに作成

（注）
国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センター
「キャリア教育に関する総合的研究第二次報告書」
（令和3年10月）

小・中学校と連携・協働した取組例

松前高校では、町内の小・中学校と連携・協働し、「キャリア・パスポート推進会議」を発足させました。

参加者による協議では、町内での「育てたい子ども像」を統一させる観点から、子どもに身に付けさせたい資質・能力の分類や、経済産業省が定義している「人生100年時代の社会人基礎力」と関連付けた評価項目の作成など、キャリア・パスポートの効果的な活用に向けて、校種を越えた連携・協働を図っています。



【協議の様子】

「人生100年時代の社会人基礎力」とは

「人生100年時代の社会人基礎力」は、これまで以上に長くなる個人の企業・組織・社会との関わりの中で、ライフステージの各段階で活躍し続けるために求められる力と定義され、社会人基礎力の3つの能力/12の能力要素を内容としつつ、能力を発揮するにあたって、自己を認識してリフレクション（振り返り）しながら、目的、学び、統合のバランスを図ることが、自らキャリアを切りひらいていく上で必要と位置付けられる。



【人生100年時代の社会人基礎力（経済産業省）】

TOPIC

多様な性を生きる一人一人が安心して働ける社会に向けて

進路指導においては、一人一人の意欲や適性、能力等を考慮しながらきめ細かな進路指導を行うことが大切です。

特に就職活動では、男女分けや性別を問われる機会が多く、「履歴書の性別欄に記載しづらい」「スカートは嫌だから自由な服装で働ける企業がいい」など、生徒からの様々な相談事例が挙げられます。

性自認に合った服装や身だしなみなど、就職指導に関して困ったときは、右の各種相談機関を活用することが効果的です。また、生徒が直接連絡を取り、相談することも可能です。



【LINE相談】

セクシュアリティ専門SNS相談
「にじいるtalk-talk」
・相談時間
月2回18:50～21:50



【電話相談】

LGBTほっとライン（札幌市）
・相談時間
木曜日16時～20時
（年末年始を除く）
・電話 にじいる
011-728-2216



バックナンバーの紹介

過去3年間のバックナンバーを紹介します。道教委のWebページからダウンロードできますので、学校におけるキャリア教育の推進に当たって、参考にしてください。

【発行年度と主な内容】

- 令和3年度 [キャリア教育のPDCAサイクル確立を](#)
- 令和2年度 [アカデミック・インターンシップ、就職活動を見据えたインターンシップの実践例](#)
- 令和元年度 [キャリア・パスポート特集](#)

Webページは
こちらから



※PCの画面上ではリンク になっています

リーフレットに関する問合せ先

北海道教育庁学校教育局高校教育課キャリア教育指導係

〒060-8544 札幌市中央区北3条西7丁目 Tel. 011 (231) 4111 (内線35-729)

<https://www.dokyoj.pref.hokkaido.lg.jp/hk/kki/career.htm>

